

第2章 事業概要

1. 事業の内容

- 1 食肉検査……生体検査、内臓検査、枝肉検査
- 2 食鳥検査……生体検査、脱羽後検査、内臓摘出後検査
- 3 精密検査……細菌検査、病理検査、理化学検査、ウイルス検査
- 4 衛生検査……監視指導、ふきとり検査、講習会の開催

2. 食肉関係

衛生対策

健康な家畜の搬入、生産段階からの衛生管理の徹底を図るため、生体の汚染状況、疾病の発生状況について生産者及び臨床獣医師に検査結果等の情報をフィードバックしている。

また、県食品衛生監視指導計画に基づき、と畜場・併設食肉処理場の監視を行った。さらに、施設及び枝肉の細菌検査を行い、衛生管理責任者及び作業衛生責任者を中心に講習会・勉強会を実施し、食肉の衛生向上に努めた。

と畜検査の推移

処理頭数は、豚・馬は、前年度並み、牛は、前年度に引き続き、素牛価格の高騰、出荷適齢牛の減少の影響により大幅に減少した。

廃棄頭数は、豚の敗血症による全部廃棄が、前年度に比較して減少した。炎症による一部廃棄の原因は、豚の肺病変と牛の肝臓病変が多くを占める。

(1) 年度別食肉検査状況

年度\区分	牛	とく	馬	豚	緬山羊	計
12年	8,957	36	572	37,606	2	47,173
13年	6,403	15	501	31,338	3	38,260
14年	9,648	5	485	34,479	0	44,617
15年	9,103	85	481	36,903	0	46,572
16年	7,885	136	455	37,185	0	45,661
17年	6,459	94	439	36,609	1	43,602
18年	6,183	45	444	36,658	0	43,330

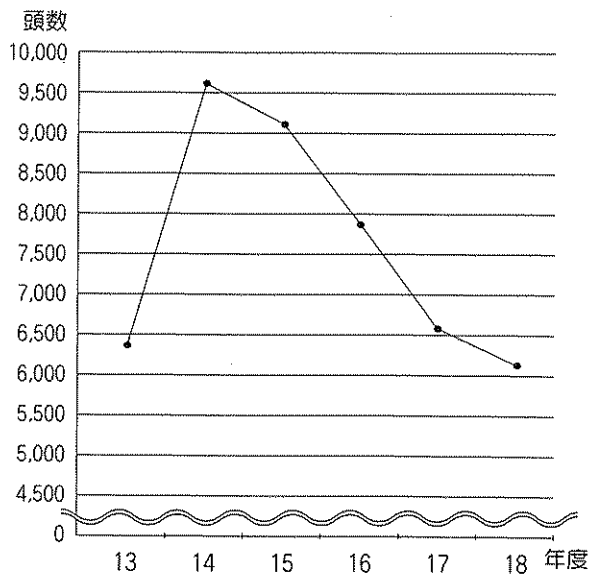
(2) 平成18年度と畜場別検査頭数

処理場名	畜種	開場日数	肉用牛	乳用牛	とく	馬	豚	緬羊	山羊	合計
俣山梨食肉流通センター		249	1,515	4,668	45	444	36,658	0	0	43,330
山梨県畜産試験場		0					0			0
合計		249	1,515	4,668	45	444	36,658	0	0	43,330

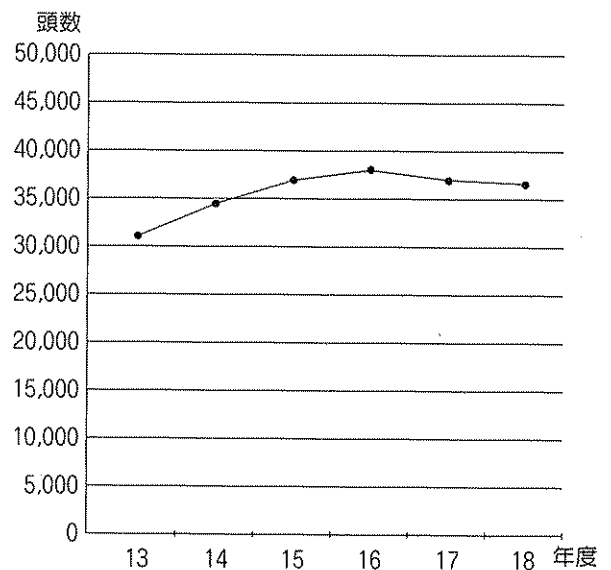
(3) 月別検査頭数

月	区分	牛	とく	馬	豚	緬羊	山羊	合計
4		550	12	40	2,932	0	0	3,534
5		559	6	35	2,893	0	0	3,493
6		418	3	35	2,698	0	0	3,154
7		506	4	39	2,614	0	0	3,163
8		521	2	50	2,947	0	0	3,520
9		542	7	35	3,048	0	0	3,632
10		632	2	34	3,594	0	0	4,262
11		530	0	37	3,292	0	0	3,859
12		575	2	51	3,302	0	0	3,930
1		455	2	25	3,208	0	0	3,690
2		475	4	30	2,905	0	0	3,414
3		420	1	33	3,225	0	0	3,679
合計		6,183	45	444	36,658	0	0	43,330

■牛検査頭数の推移

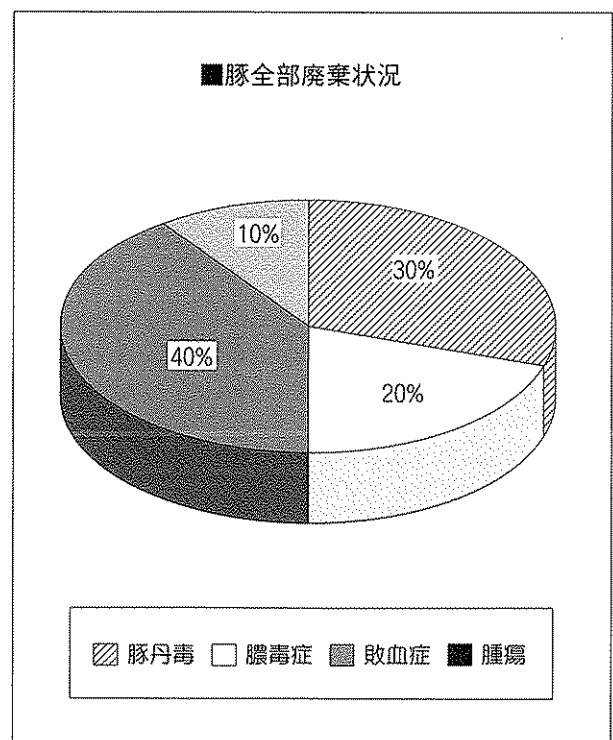
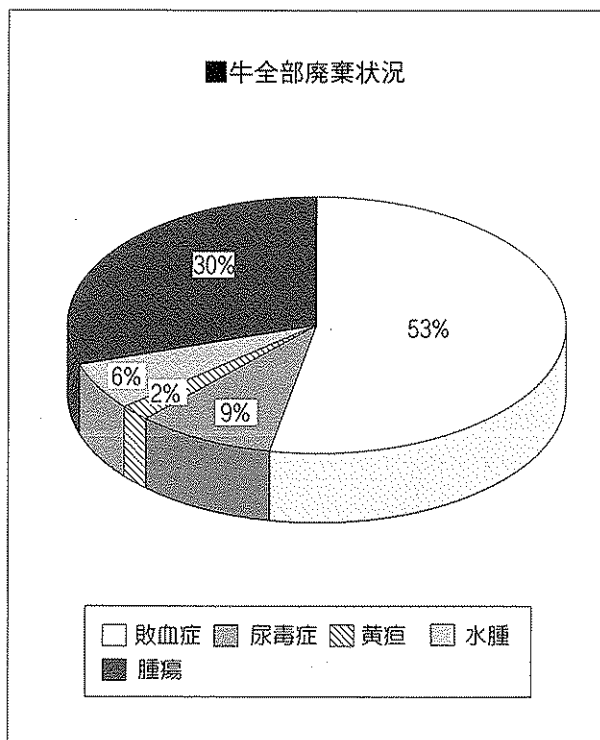


■豚検査頭数の推移



(4) とさつ禁止、廃棄状況

畜種 区分 病類別	牛			とく			馬			豚			緬山羊		
	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄
実頭数	0	34	2,968	0	0	21	0	0	69	0	10	26,447	0	0	0
豚丹毒											3				
トキソプラズマ病															
寄生虫病			13								6				
膿毒症		0									2				
敗血症		18									4				
尿毒症		3									0				
黄疸		1	0								0				
水腫		2	63			1									
腫瘍		10	0								1				
放線菌症			2												
炎症または炎症産物による汚染		0	1,826			20			64			25,233			
変性または萎縮			398			4			3		0	3			
その他		0	821			0			4			1,843			
計	0	34	3,123	0	0	25	0	0	71	0	10	27,085	0	0	0



(5) 病名別一部廃棄状況

病名		畜種	とく	牛	馬	豚
循環器系	心外膜炎		2	70		1,109
	心内膜炎					
	心筋変性					
	心筋炎			2		
	心水腫			1		
	心弁膜血腫					
	心室中隔欠損					
	心肥大					
	脾腫					
	脾腫瘍					
	リンパ筋膿瘍					3
	リンパ節炎					174
体腔	腹膜炎		2	18		9
	汎漿膜炎			1		815
	鼻炎					10
呼吸器系	肺炎	S E P 胸膜炎型		1		15,351
		膿瘍型	1	9		4,857
		その他の	20	70	1	96
						28
	血液吸入肺炎					1,088
消化器系	肺気腫			1		
	舌炎			3		
	胃炎			110		
	胃潰瘍					
	胃膿瘍					
	創傷性胃炎			1		
	第四胃変位			3		
	胃腸炎		4	20		
	小腸炎		1	10	1	222
	大腸炎		0	17		97
	抗酸菌症					879
	腸気泡症					60
	胃アトニー					
	鼓脹症					
	ヘルニア			2		2
腸捻転						
脱肛						
周囲脂肪壊死			48			
ヨ一ネ病						
肝炎	鋸屑肝膿瘍型		0	763	1	
	肝硬変型		0	243		6
	肝硬変型		0	6		216
	間質炎型		0	144	5	7,097
	包膜炎型		1	148	2	265
	胆管炎型		1	178	1	
その他の		11	91		186	
肝変性		6	361		6	
肝富脈斑			389			
ニクズク肝			6			
肝砂粒症					36	
好酸球性増殖性小葉間静脈炎			3			
脂肪肝			1			
血管炎						
嚢胞肝			4			

病 名		畜 種	と く	牛	馬	豚	
泌 尿	腎 炎	出 血 型		2		7	
		結 石 型		1			
		ターキーエッグ型					
		膿 瘍 型	1	11		1	
		腎 盂 炎 型		2		3	
		間 質 炎 型		4		49	
		そ の 他		4		45	
		水 腎 症					
生	腎 梗 塞					22	
	囊 胞 腎			0		204	
	萎 縮 腎						
	腎 盂 拡 張 症					14	
殖	周 囲 脂 肪 壊 死			17			
	膀 胱 炎			2			
	膀 胱 破 裂						
	膀 胱 結 石 転						
器	子 宮 捻 転			0			
	子 宮 内 膜 炎			0			
	子 宮 蓄 膿 症			1			
	子 宮 脱 墜						
系	後 産 停 滯						
	乳 房 炎	膿 瘍 型		3			
		壊 疽 性 型		0			
		そ の 他		26			
運 動	放 線 菌 症			2			
	筋 肉 出 血	0	218	5	162		
	筋 肉 変 性	0	140	1	2		
	筋 肉 膿 瘍	1	43		361		
	関 節 炎	2	69		20		
	骨 折	0	14	2	1		
	脱 臼		37		2		
	蹄 病		3				
	脊 椎 膿 瘍				1		
	筋 肉 水 腫		3				
	外 傷		2				
	手 術 創		86				
	皮 下 膿 瘍		16				
	皮 下 出 血		197	3			
腱 断 裂 症		5					
寄 生 虫	肝 蛭 症		14				
	豚 肺 虫 症				6		
	エ キ ノ コ ッ ク ス						
腫 瘍	黒 色 腫						
	乳 頭 腫						
	リ ン パ 腫						
	そ の 他			1			
そ の 他	リ ポ フ ス チ ン 沈 着 症			29			
	横 膈 膜 水 腫	1	24				
	横 膈 膜 膿 瘍	1	46				
	滑 膜 膿 腫		24				

3. 食鳥関係

大規模食鳥処理場において食鳥処理法に基づく検査を行うとともに、近年鶏の伝染病で大きな問題となっている高病原性鳥インフルエンザ対策について検討した。

また、山梨県監視指導計画に基づき、ふきとり検査結果等による食鳥処理場及び併設する食肉処理施設の監視指導、動物用医薬品を対象とした残留検査を実施した。

さらに、サルモネラ及びカンピロバクターの保菌調査や食鳥検査結果等のフィードバックを定期的に行うとともに家畜保健衛生所と検討会を開催して、生産サイドとの連携を強化した。

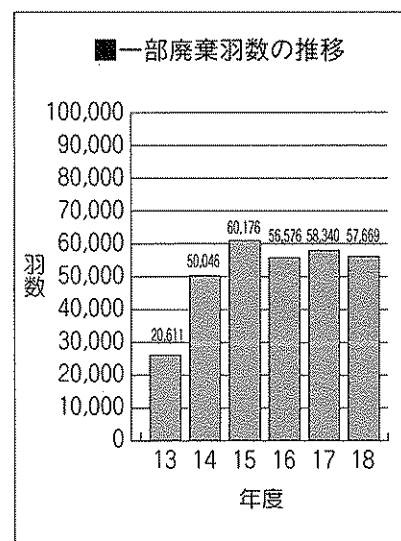
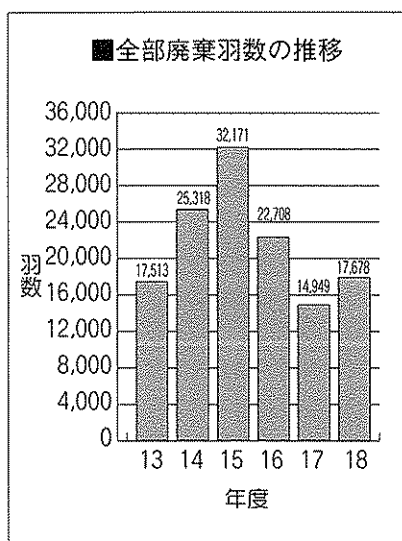
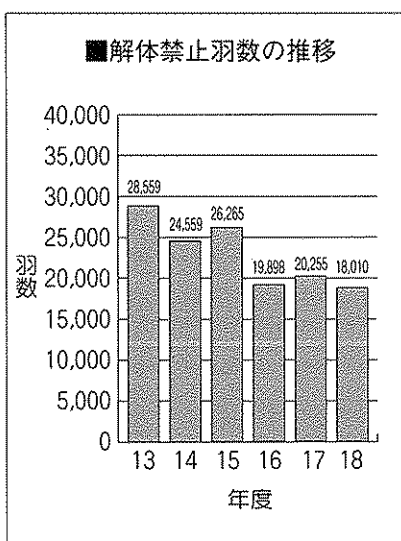
(1) 年度別検査羽数及び廃棄状況

年度別検査羽数

項目 \ 年度	13	14	15	16	17	18
出荷羽数	3,058,335	3,273,375	3,384,597	3,321,273	3,504,168	3,566,146
へい死羽数	4,656	5,081	5,983	4,819	6,249	4,368
検査羽数	3,053,679	3,268,294	3,378,614	3,316,454	3,497,919	3,561,778

年度別廃棄状況

項目 \ 年度	13	14	15	16	17	18
解体禁止羽数	28,559	24,559	26,265	19,898	20,255	18,010
全部廃棄羽数	17,513	25,318	32,171	22,708	14,949	17,678
一部廃棄数	20,611	50,046	60,176	56,576	58,340	57,669

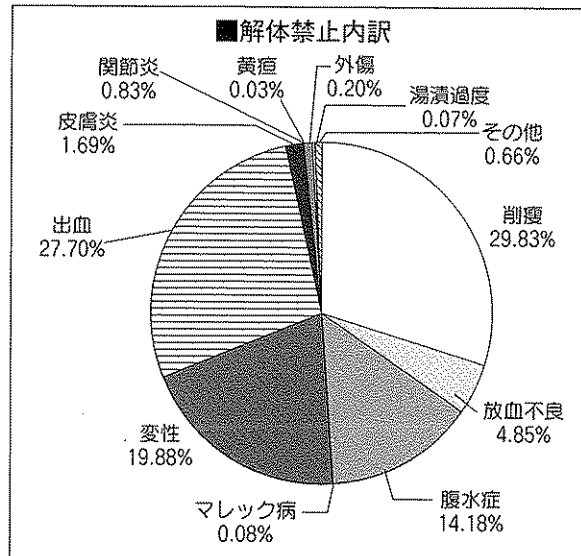


(2) 平成18年度検査結果

解体禁止													解体禁止合計
削瘦	放血不良	腹水症	マレック病	変性	出血	皮膚炎	ブドウ球菌症	関節炎	黄疸	外傷	湯漬過度	その他	
5,373	873	2,554	14	3,581	4,988	304	1	149	5	36	13	119	18,010

解体禁止は0.51%（解体禁止羽数／検査羽数）で、前年度より若干減少した。

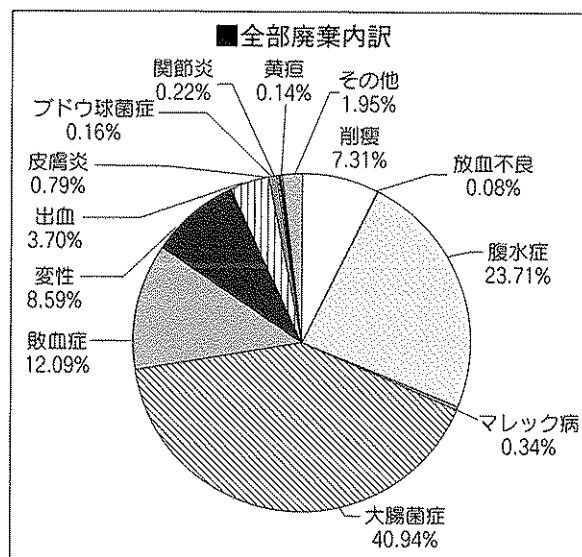
主な原因は、削瘦（発育不良）、出血、変性、腹水症で、出血の割合が増加した。



全部廃棄													全部廃棄合計
削瘦	放血不良	腹水症	マレック病	大腸菌症	敗血症	変性	出血	皮膚炎	ブドウ球菌症	関節炎	黄疸	その他	
1,292	14	4,191	60	7,237	2,137	1,519	654	139	28	39	24	344	17,678

全部廃棄は0.50%（全部廃棄羽数／検査羽数）で、前年度より若干増加した。

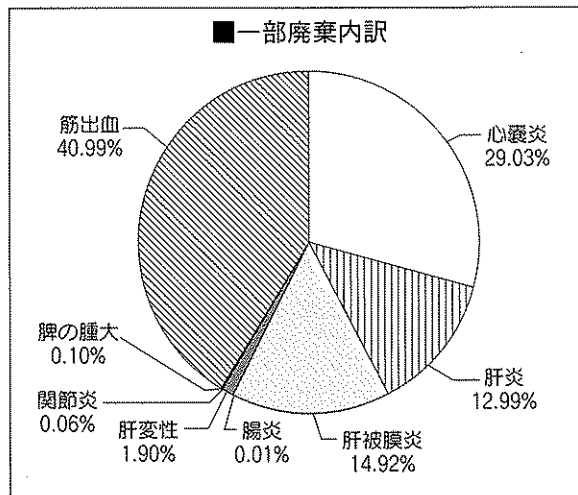
主な原因は、大腸菌症、腹水症、変性で、昨年度と大きな変化はなかった。



一部 廃 棄															一部廃棄合計	
心囊炎	気囊炎	肝炎	肝被膜炎	肝変性	脾の腫大	腎炎	腸炎	コクシジウム	関節炎	筋出血	骨折	皮膚炎	膿瘍	腫瘍		その他
16,741	0	7,489	8,606	1,095	55	0	7	0	35	23,638	0	0	0	0	3	57,669

一部廃棄は1.62%（一部廃棄羽数／検査羽数）で、前年度とほぼ同様であった。

主な原因は、筋出血、心囊炎、肝被膜炎、肝炎で、肝疾患系の割合が増加した。



4. 精密検査関係

疾病排除を目的とした各種疾病診断、微生物汚染防止のためのふきとり検査および保菌調査、有害物質排除のための残留抗菌物質検査を実施した。また、GLPを導入し、業務管理要領にもとづいた検査を行い信頼性の確保に努めた。

(1) 精密検査実施状況

検査室名	区分	行政検査			調査研究			合計		
		検査頭数	検体数	検査数	検査頭数	検体数	検査数	検査頭数	検体数	検査数
理化学検査室	食肉関係	378	762	6873	13	13	73	391	775	6946
	食鳥関係	15	30	290	16	16	16	31	46	306
	小計	393	792	7163	29	29	89	422	821	7252
病理検査室	食肉関係	27	181	385	39	41	41	66	222	426
	食鳥関係	24	62	124	27	66	368	51	128	492
	小計	51	243	509	66	107	409	117	350	918
細菌検査室	食肉関係	510	930	4093	67	67	469	577	997	4562
	食鳥関係	455	300	1492	1700	170	1020	2155	470	2512
	小計	965	1230	5585	1767	237	1489	2732	1467	7074
ウイルス検査室	食肉関係	10	109	109	184	184	184	194	293	293
	食鳥関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	10	109	109	184	184	184	194	293	293
BSEスクリーニング検査	牛	6228	6368	6368				6228	6368	6368
小計	食肉関係	7153	8350	17828	303	305	767	7456	8655	18595
	食鳥関係	494	392	1906	1743	252	1404	2237	644	3310

(2) 各検査室における検査内容

理化学検査室

血液検査を全自動血球計数器とドライケムを用いて実施し診断の参考とした。
平成18年度畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査を行った。

【行政検査】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
黄疸判定	牛	2	2	4
	豚	0	0	0
尿毒症の判定	牛	3	14	15
	豚	0	0	0
血液検査	牛	328	656	5,904
	馬	3	6	54
	豚	2	4	36
合成抗菌剤	牛	15	30	420
	豚	15	30	420
	鶏	10	20	280
フルベンダゾール	豚	5	10	10
	鶏	5	10	10
	牛	5	10	10
合計		393	792	7,163

【調査研究】

調査内容	畜種	検体数	検査数
外部精度管理（フルベンダゾール）	液卵	10	10
合成抗菌剤一斉分析の手技習得	豚	6	66
フルベ通知試験法	牛	2	2
	豚	5	5
	鶏	6	6
合計		29	89

病理検査室

食肉及び食鳥検査において病理組織学的検査が必要と認められる疾病が発見された場合、検査を行い診断の一助としている。

【行政検査】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
炎症	牛	1	1	2
	豚	7	21	55
	馬			
	鶏	14	32	64
変性	牛	0	0	0
	豚			
	馬	0	0	0
	鶏	6	13	26
腫瘍	牛	13	134	280
	豚	1	14	28
	馬	3	7	16
	鶏	4	17	34
奇形	牛			
	豚	0	0	0
	馬			
	鶏			
その他	牛	0	0	0
	豚	2	4	4
	馬			
	鶏			
合計		51	243	509

【調査研究】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
病理研究会	牛	18	19	19
	豚	19	20	20
	馬	2	2	2
	鶏	7	26	248
三学会	鶏	20	40	120
合計		66	107	409

生物科学検査室（細菌）

解体後の検査において細菌性の疾病を疑った場合、病原菌の分離・同定等の微生物検査を実施するとともに食肉関係（O157）・食鳥関係（サルモネラ・カンピロバクター）施設および輸送車のふきとり検査を実施して衛生指導に活用した。

【行政検査】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
敗血症の検査	牛	18	133	255
	豚	6	42	77
	鶏	0	0	0
関節炎型豚丹毒の検査	豚	8	22	66
O157ふきとり検査（枝肉）	牛	105	210	945
ふきとり検査 （枝肉、枝肉又は食鳥と体、施設）	牛	63	63	630
	豚	80	80	800
	鶏	166	91	962
	食肉関係	80	80	80
	食鳥関係	189	189	410
残留抗菌性物質モニタリング検査	牛	15	30	180
	豚	15	30	180
	鶏	100	20	120
厚労省枝肉ふきとり検査	牛	40	80	400
	豚	40	80	400
厚労省G F A P検査	牛	40	80	80
合計		965	1,230	5,585

【調査研究】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
カンピロバクター保菌調査	鶏	850	85	425
サルモネラ保菌調査	鶏	850	85	595
O157保菌調査	牛	65	65	455
敗血症原因菌性状試験	牛	0	0	0
S T E C性状試験	牛	0	0	0
外部精度管理	大腸菌群同定	2	2	14
内部精度管理	O157,サルモネラ属菌同定	0	0	0
合計		1,767	237	1,489

敗血症及び豚丹毒による処分頭数の年計推移

処分理由	動物種	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
敗血症	牛	3		3	3	3	3	3	7	4	4	12	24	14	18
	とく		1										2	0	0
	馬				1									0	0
	豚	3	6	1	5	4	9	2	1	1	2	8	10	15	4
豚丹毒	豚	21	12	7	10	11	14	46	17	4	15	20	24	3	3

生物科学検査室（ウイルス）検査室

ウイルス検査室ではPCR法を用いて牛の白血病について補助的な診断を行った。

【行政検査】

検査内容				畜種	検査頭数	検体数	検査数
B	V	D	V	牛	10	109	109
合計					10	109	109

【調査研究】

検査内容					畜種	検査頭数	検体数	検査数
B	V	D	V	検査法	牛	5	5	5
H	E	V	調査		豚	179	179	179
合計						184	184	184

5. 衛生指導

消費者の食肉の安全・安心に対する関心が高まり、食肉・食鳥処理施設での衛生管理は、より重要となってきた。

このため、各処理場において定期的にふきとり検査を実施するとともに監視指導の強化、従事者の衛生教育等を実施した。県食品衛生監視指導計画に基づき、併設食肉処理場の監視を実施した。

また、衛生管理を主体とした管理マニュアルを基に衛生指導を行い、微生物汚染防止に努めた。

情報紙「食肉衛生検査所だより」の発行と生産農家への検査データのフィードバック事業を実施した。

(1) 処理施設の汚染調査及び監視指導

*各施設のふきとり検査 430検査

(一般生菌・大腸菌・サルモネラ・カンピロバクター・ブドウ球菌)

*各施設の監視指導

区 分	監視数
と畜場・食鳥処理場	529
併設食肉処理場	96

(2) 食肉関係者に対する講習会の開催

- ・食肉処理場における衛生管理
- ・汚染調査結果について
- ・食品取扱者の衛生管理
- ・食鳥肉の衛生対策について
- ・食鳥処理場従業員の衛生教育について

(3) 検査データフィードバック事業関係

対象 豚生産農家 18戸

食鳥生産農家 28戸

(4) 食肉・食鳥処理場衛生推進運動の実施

*食肉輸送車・施設のふきとり検査 113検体 207検査 (輸送車 53台)

*ポスターの掲示

*施設の衛生チェック

*従事者に対する講習会

*自主管理体制の点検

6. 研 修

関係機関が開催する各種の県外研修に参加し、検査員の資質向上を図った。
また、基礎的知識、技能の習得のため、所内研修会を実施した。

月 日	出 張 内 容	場 所
2006/5/11	全国食肉衛生検査所協議会第53回研修会	神奈川県
6/2	関東甲信越ブロック食肉衛生検査所協議会	茨城県
6/16	第243回鶏病事例検討会	茨城県
6/19～7/14	平成18年度国立保健医療科学院特別課程	埼玉県
6/29～30	第508回 HPLC 入門講習会	神奈川県
7/19～21	先進地視察研修	兵庫県
8/3	平成18年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	東京都
8/21～22	テクニカルワークショップ「初めてのPCR」	京都府
8/31	食品衛生監視員協議会関東ブロック大会	千葉県
9/1	平成18年度全国公衆衛生獣医師協議会総会及び研修・研究発表会	東京都
9/15	第244回鶏病事例検討会	茨城県
9/20～22	第27回食品微生物学会学術総会	大阪府
10/6	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会	栃木県
10/27	平成18年度関東甲信越ブロック食肉衛生検査所協議会業績発表会	茨城県
11/9～10	平成18年度全国食品衛生監視員研修会	東京都
11/16～17	全国食肉衛生検査所協議会病理部会第54回病理研修会	神奈川県
11/21	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会第26回総会・研修会	神奈川県
12/15	日本分析化学会 関東支部 第3回東京セミナー	東京都
12/15	第245回鶏病事例検討会	茨城県
12/22	感染研セミナー	東京都
2007/1/17～19	平成18年度食肉技術研修会	東京都
1/22	食鳥肉衛生技術研修会	東京都
1/29	サンプル前処理ベーシックコース	東京都
2/8	高速液体クロマトグラフメンテナンス講習会	神奈川県
3/2	第14回 HPLC スクール	神奈川県
3/8	HPLC ノウハウセミナー	長野県
3/12～13	食肉衛生検査所における試験検査の業務管理要領第31条の研修	神奈川県

平成18年度 所内研修

- | | | |
|-----|---|--------|
| 第1回 | BSE スクリーニング検査に係る研修 | 4月18日 |
| 第2回 | 担当・検査室からの連絡、確認事項について | 5月15日 |
| 第3回 | ①国立保健医療科学院特別課程 食肉衛生検査コース復命（概要）
②食鳥処理施設の衛生監視について
③「飲酒運転の根絶」「セクシャル・ハラスメントのない職場づくり」について
④情報セキュリティについて | 7月26日 |
| 第4回 | ①国立保健医療科学院特別課程 食肉衛生検査コース復命
②兵庫県視察研修復命
③獣医三学会発表演壇予演「プロイラーの深胸筋病変について」 | 9月7日 |
| 第5回 | 各検査室における検査実施状況 | 10月19日 |
| 第6回 | ①病理部会予演「鶏の腹腔内腫瘍」
②生食用食肉の衛生管理と表示について | 11月14日 |
| 第7回 | ①BSE スクリーニング検査陽性時対応演習について
②山梨県公衆衛生研究発表会予演
「大規模食鳥処理場における高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）対策」 | 1月30日 |